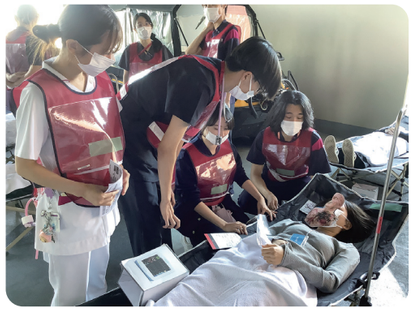
● 防災訓練 2026 を実施しました



10/17（土）9：00 より「都心南部直下型地震」を想定した防災訓練を行いました。

今年は足立区衛生部、荒川区健康部、葛飾区危機管理部、区東北部の災害拠点病院関係の方々に見学いただいた中での訓練となりました。

訓練検証目標として「新病院 MCP（医療継続計画）および各部門のアクションカード」、「多数傷病としての熱傷患者への対応」、「病床拡張時の課題提出」を挙げました。







当日は、営業土曜日の8時30分に発災、最大震度6強（M7.3）を想定し、管理当直時間帯での対応となることから管理当直者役のスタッフを中心に数人が患者サポートセンターエリアに集まり暫定災害対策本部を立ち上げるところから開始しました。被災状況やライフラインの確認、傷病者の来院状況、近隣交通機関等の情報収集や初期対応までを限られた人員で行い、その後設置された災害対策本部へバトンを引き継ぎました。

以降、災害対策本部長の塩沢俊一病院長の指示のもと、外来患者避難誘導・傷病者トリアージ訓練が行われました。地域中核災害拠点病院である当院には、区東北部病院からの患者受け入れ要請も来るため、本部に設置した入院部門では受け入れの為のベッドコントロール・入院調整に四苦八苦していました。

その他、病院敷地内では西新井警察とのコラボ企画（重量物排除要領、テコの原理を利用した救出要領、身近なものを活用した担架作成要領）、移動型手術室モバイル SCOT 車両を利用した訓練（重症熱傷患者の焼痂切除）が行われました。



今回の訓練で得た経験と検討課題の改善に取り組み、地域中核災害拠点病院および医療対策拠点として機能の強化に努めて参ります。

ご協力いただいた方々、
誠にありがとうございました。





モバイルSCOT車


モバイルSCOT内での手術

Topics
広報誌トピックス



東京女子医科大学
附属足立医療センター
Tokyo Women's Medical University
Adachi Medical Center

2026
紅葉号
Vol.05

Contents

・子ども探検ツアー
・新任のごあいさつ
・整形外科紹介
・第12回足立医療センター
地域医療支援病院運営委員会
・防災訓練



● 子ども探検ツアー

昨年より開催した足立区との共催事業「子ども探検ツアー」を本年も開催しました。まず８月７日(金)に小学生(区内在住・在学の４～６年生)の部、８月21日(金)には初めての試みである中学生(区内在住・在学の１～３年生)の部を開催しました。

小学生・中学生共に定員は10名ですが、小学生144名、中学生51名とたくさんのご応募をいただきました。

小学生と中学生は内容こそ違いますが、ハイブリットER、薬剤部、手術室、放射線科、ヘリポートなどを見学し、電気メスで鶏むね肉を切ったり、ダミー人形に気管内挿管をしたりと普段は体験することのできないバックヤードツアーに興味と驚きをもって参加していました。

救急車や水陸両用車、DMAT 車、NBC 救急車に乗ったり、記念撮影したりできたのも良い時間になったと思います。

また、専門職からの話として、外科医師から医師を志したきっかけや仕事への心構え、チーム医療についての話がありました。救命救急士からは先日も出動した災害救助の話やドクターヘリの動画などの紹介がありました。

最後に塩沢院長から「将来、人の役に立つような仕事をして、足立区に貢献してもらえるとうれしい」と言う言葉でツアーを締めくくりました。


放射線科


手術室


薬局


救急



水陸両用車

● 新任のごあいさつ



形成外科　教授
堀　圭二朗（ほり　けいじろう）

地域とともに歩む形成外科を目指して

2026 年 9 月 1 日より、東京女子医科大学附属足立医療センター形成外科の教授を拝命いたしました。形成外科は、病気やけがなどによって生じた外見や機能の問題に向き合い、患者さんがその人らしい生活を送れるよう支える診療科です。

当科では、熱傷、顔面骨骨折や四肢の外傷、皮膚腫瘍、先天異常など幅広い疾患を診療しています。その中でも「再建・マイクロサージャリー」「創傷外科」「レーザー治療」を 3 本柱として、診療の充実に努めてまいります。乳房や頭頸部などの再建では、微細な血管をつなぐ技術を生かし、形態と機能の回復を行っております。褥瘡や糖尿病性足潰瘍などの治りにくい傷には、多職種と協力して取り組みます。また、あざや色素性病変には、適切な診断に基づく安全なレーザー治療を提供します。



当センターは地域医療支援病院です。地域の医療機関との連携をさらに深め、ご紹介いただいた患者さんの診療経過を丁寧に共有してまいります。地域の先生方との顔の見える関係を大切にし、治療後も患者さんが住み慣れた地域で安心して過ごせるよう、一人ひとりに適した形成外科医療を届けてまいります。



心療・精神科　教授
上里　彰仁（うえざと　あきひと）

多様な背景をもつ患者さんに寄り添う精神医療を

2026 年 9 月 1 日付で、東京女子医科大学附属足立医療センター心療・精神科に着任しました。これまで文化精神医学、臨床精神薬理学、睡眠医学を主な専門領域として、診療・研究・教育に従事してまいりました。特に、異なる文化的背景をもつ人々の間に生じる相互作用や、それがメンタルヘルスに及ぼす影響に関心をもち、臨床と研究に取り組んでいます。

精神科医療では、患者さんの症状だけでなく、その方の生活や家族、仕事、文化的・社会的背景を理解することが大切だと考えています。また、総合病院の精神科として、身体疾患を抱える患者さんのこころの問題にも積極的に関わり、院内各診療科・多職種との連携を深めていきたいと考えています。



診療の充実に加え、若い医療者が精神医学に関心をもち、臨床や研究に挑戦できる環境づくりにも力を注ぎ、地域と病院に貢献できる心療・精神科を目指してまいります。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理　念　センターは、「至誠と愛」の心をもって人に接し、最善の医療を実践し、社会に貢献するとともに全人的医療人を育成することを理念とする。

基本方針

1. 患者視点に立った、きめ細やかな温かい心の通った医療を実践します。
2. 先進医療の推進や高度医療の提供に尽力し、チーム医療と質の高い安全な医療を提供します。
3. 医療連携を通して、地域住民の健康推進に貢献します。
4. 創造的知性と豊かな人間性を有する医療人を育成します。

財団法人日本医療評価機構
認定病院

● 整形外科紹介



整形外科　教授（副院長）
髙木　博（たかぎ　ひろし）

整形外科 ―
運動器の健康を支え、地域の皆さまの生活を守ります

整形外科では、脊椎から四肢に至るまで、全身の「運動器」に関わる幅広い疾患を診療しています。骨・関節・筋肉・靱帯・神経などの疾患は、痛みや運動機能の低下をもたらすだけでなく、仕事やスポーツ、日常生活など、患者さんの社会生活に大きな影響を及ぼします。当科では、慢性疾患から骨折・外傷、スポーツ障害まで、患者さんが一日も早く元の生活を取り戻せるよう、安全で質の高い医療を心がけています。

対象となる疾患は、整形外科一般、人工関節（膝・股関節）、スポーツ外傷（膝靱帯・半月・軟骨損傷）、骨折・外傷などの救急整形疾患、手の外科、脊椎疾患など多岐にわたります。各分野の専門医が連携し、それぞれの患者さんに適した治療を提供しています。また、体外衝撃波疼痛治療装置を用いた治療や、変形性膝関節症に対する再生医療の特殊診療など、手術以外の治療にも取り組んでいます。



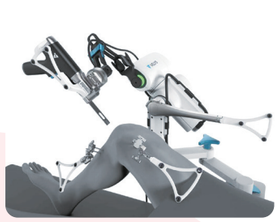
手術治療では、人工膝関節・人工股関節置換術、膝周囲骨切り術、膝関節靱帯再建術、脊椎手術、四肢の骨折手術をはじめ、さまざまな外傷手術に対応しています。特に変形性膝関節症に対しては、ロボット支援技術を活用した人工膝関節置換術を導入し、患者さん一人ひとりの骨格や関節の状態に応じた、より正確で低侵襲な手術を目指しています。また、スポーツによる膝の靱帯・半月板損傷などに対しても、関節鏡を用いた低侵襲手術を積極的に行っています。

当院は救命救急センターを有しており、救急部門と緊密に連携し、重症外傷や複数の診療科にまたがる外傷にも迅速に対応しています。高齢の患者さんや複数の基礎疾患をお持ちの患者さんについても、内科など他診療科と協力し、安全に手術・治療を受けていただける体制を整えています。

大学病院として、日々の診療に加えて、より良い治療を目指した研究や、次世代の医療を担う医師の教育にも力を入れています。これらの活動を通じて診療科としてさらに発展し、地域の先生方から安心してご紹介いただき、患者さんからも信頼していただける整形外科を目指してまいります。地域の先生方からのご相談や診療のご依頼にも迅速にお応えし、地域の皆さまの健康と生活を支える診療科として、今後も努力を続けてまいります。



ロボット支援人工膝関節置換術





難治性足底腱膜炎（保険診療）やテニス肘（自費診療）に対する体外衝撃波治療



再生医療であるPRP（PFC-FD）療法